

令和3年9月10日

駒澤大学ボクシング部 各位

一般社団法人日本ボクシング連盟
会長 内田 貞信

貴大学より提出された要望書に対する回答

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、先日、貴学より提出された要望書について回答します。まず、大前提として、8月17日の理事会で、最終的に、小山田監督・中島総監督から、大学王座への出場を「辞退」するとの発言があり、議論は打ち切れ、決を取ることなく理事会は終了しました。その後、8月20日付で要望書を提出して頂きましたが、要望書としては不適切で内容を審議するにあたらないとして、予定通り8月21日に大学王座を開催しました。詳細は以下をご通読ください。

1. 「芦屋大学の選手の皆様も同じだと思われまます」という点について

こちらは完全に推測の範疇です。本日に至るまで、芦屋大学から延期に関する要望書の提出や、貴学の要望書に同調する意見は伺っていません。推察のみで重大な発言をするのは避けましょう。

2. 「新型コロナウイルス感染は誰にでも起こり得ることで我々の瑕疵ではない」という点について

ご指摘の通り、新型コロナウイルスに感染するリスクは誰にでもあります。日本一をかけた試合に向けて、しっかりと感染対策を施行していたにも関わらず、部内でクラスターが発生した事は、誠に残念な事だと思います。もちろん、「感染したこと」そのものは、あなた方の瑕疵ではありません。しかしながら、当たり前のことですが、瑕疵が無くても、物事が思い通りに進まない、という事は世の中にはたくさんあります。我々には「瑕疵がない」ので、我々のために延期を決定「すべき」である、という言葉は、相手校である芦屋大学の気持ちをきちんと汲んだ発言ですか。試合を開催するために準備をしてきた関係者への感謝の気持ちがこもった言葉ですか。これから大学を卒業し、大人として、社会に羽ばたこうとしている皆さんがすべき発言ですか。今一度、胸に手をあてて、どのような発言が適切であるかを考えてみてください。

3. 「理事会に学生連盟の出席がなく、学生の意見が考慮されていない」という点について

試合に出場する両大学の意見は非常に重要であると考え、8月17日の理事会に、駒澤大学から小山田監督、芦屋大学から樋山監督に出席して頂きました。両大学の代表的立場である監督が出席した中での審議ですので、十分に両者の意見を聞きとることができたと考えています。誤解しないで頂きたいのは、学生の大会なので、学生を招聘する、という義務はありません。もし学生の出席が必要だと考えるのであれば、双方の監督(駒澤大学さんであれば、小山田監督から)学生の意見が重要なので、学生を招聘すべきだ

と提案されるべきです。意図した結果が得られなかったからといって、自分たちが出席していないから、理事会での決定は無効である、という発言が、どれだけ理事会を軽視した発言であるか、今一度考えてみてください。

4. 「決定に至る詳細な説明がなく、理事会事態が不明瞭である」という点について

全ての理事会の議事録がホームページ上に公開されています。また、詳細な発言内容に関しても添付資料として公開しています。貴学からの発言は、こちらをご確認された上での発言でしょうか。また、この問題に関しては、さらに詳細を記載した文書もホームページに公開されています。つまり、「決定に至る詳細な説明」は全国へ公開されておりますので、「理事会が不明瞭である」という発言は、間違いです。もし、これでもなお「理事会が不明瞭」で、「詳細な説明がない」と感じられるのであれば、理事という立場を兼務する、小山田監督・中島総監督が十分な説明を行う、道義的・指導的説明義務がありますので、ぜひ、監督と話し合ってください。

5. 「ワンマッチ方式であり両大学の了承する日程であれば延期は可能」という点について

これは明確にさせて頂きたいのですが、8月17日の理事会で審議した結果、貴学は、大学王座を「辞退」されました。その後、大会前日にこのような要望書を提出して頂いても、大会の延期という、非常に重要な問題に関して審議・決定する事は不可能です。選手からの要望書を提出するのであれば、17日の理事会に提出すべきです。20日のタイミングでは、延期は不可能です。

そしてこれは最も重要な事ですが、相手校の芦屋大学から、延期の要望の連絡は一切なく、理事会における樋山監督の発言も、一貫して、予定通り大会を遂行するべきというものでした。両大学が了承する日程であれば、と言いますが、芦屋大学が延期に賛同しているとは理解できず、駒澤大学からの一方的な延期要求としか読みとれません。

以上、要望書に対する回答です。上記理由により、この要望書自体を審議するにあたりないと判断し、予定通り大会を開催しました。日連としては、今年度の大学王座に関してこれ以上議論するつもりはありませんし、これ以上の要求は、日連という組織での決定そのものに対して批判をしているとして捉えます。また、試合の準備をしてリングの上に登った芦屋大学の選手たちに、そして大会開催に尽力して下さった役員に対しても失礼な発言だと思われまますので、どうぞお控えください。

ただし、リングに上がり、ライバルと拳を交える舞台に立てなかった皆様の無念は、本当に理解できます。そのため、双方の大学が話し合った上で、大学王座とは無関係でも「大学対抗戦」として試合を行いたい、という事であれば、会場の確保や役員の派遣などについても、前向きに検討する準備があります。こちらに関しては、非公式ながら、双方の監督に対して、数時間かけてヒアリングを行い、こちらの意向も十分にお伝えしているはずです。貴大学内で、指導者を含めて再度話し合い、そのような前向きな、建設的なプランに関する要望書の再提出などご検討されてはいかがでしょうか。

敬具